

# おーぷん

## 特別編集号

社会福祉法人さざんか会法人広報誌『おーぷん第85号』

※北総育成園における新型コロナウイルス集団感染に関する特別編集

発行：さざんか会法人本部/船橋市行田2-8-1/☎047-404-1135

### “北総育成園” 新型コロナウイルス集団感染の発症から今日まで

社会福祉法人さざんか会 理事長 宮代 隆治

3月27日午後、北総育成園から私の携帯電話に「今日、職員お一人が陽性と判明、入院となりました」との報告。「完治後の、復帰をお待ちしましょう」のような会話を交わしたような…。

翌日からの連絡に、正に度肝を抜かれるような、茫然自失の状態でした。「検査の結果、感染者の数が段々増えていきます！」利用者さん、職員さん、連絡の度に告げられる数字は恐怖でした。

結局、利用者70名中54名、職員67名中40名が感染、圧倒的な感染者がそうでない人を凌駕してしまいました。年度末を迎え、大変な事態になってしまいました。30日に千葉県、船橋市、地元東庄町による合同会議が開かれ、今後の対策が話合われました。翌、31日には“北総”内に対策本部が設けられ、重症の人は入院、それ以外の人は施設内での

治療となりました。障害者施設がそのまま病院化しました。

「職員がいない、夜勤が組めない、何とか人をー」“北総”から悲鳴が聞こえます。船橋圏内の施設長が集まり“北総”への職員応援体制について緊急会議を開催、応援について職員各位にお願いすることにしました。



( 北総育成園建物外観 )

すると、男女各2名、4名の職員の方が手を挙げてくれました。誰も経験したことのない規模での集団感染の発症、未知のウイルス禍、そんな中での応援です。4月1日から末日まで、計8名の職員が船橋圏内施設から派遣されました。その期間、長い人では3週間に及びました。この他、船橋からも市職員さんを派遣して頂きました。正直、この人たちの感染が心配でしたが、医療体制の整備、その管理下での活動です。万全な防護対策が施され、誰一人感染することはありませんでした。医療と生活支援の共存、感染者と非感染者の建物内での区分けと各々への治療や支援、厳しい環境下での対応は施設内クラスター発症時の参考になるのではないのでしょうか。



(派遣医師と看護師によるミーティング)

この間、私たちへの誹謗中傷は酷いものでした。いきなり、電話口から怒声が聴こえてきます。まるで、私たちが加害者であるかのように。

集団感染が発症し、地元をはじめ多くの皆様に大変なご心配や不安な思いを抱かせたことは、本当に申し訳なく思います。が、私達も大変な被害を被ってしまいました。何より大切な2名の利用者さんがお亡くなりになったことは、途轍もない悲しみです。残念でなりません。

同時期に、全国のたくさんの方から励ましのエールが届きました。苦しさの最中、勇気を頂

きました。これら、暖かな強力な応援を頂いたからこそ、今日を迎えられたものと思っております。当然続くであります。

感染症に私たちはどのように臨んでいきましたか。それは、私たちの心のうちに連帯と協力が求められているように思います。皆で助け合いながら臨むということではないでしょうか。一方的に自粛を強いたり、責めたりすることでもありません。

感染症との戦いは、古来人類にとつての共通の課題でした。多くの犠牲をはらいながらも、私たちは何とか共存、そして克服してきました。凶暴なウイルスを前に、互いを責め排斥することは止めたものです。それこそ、ウイルスの思うつぼではないでしょうか。

痛手を被った「北総」の集団感染から今日に到る経緯を振り返りながら思うことです。



## 新型コロナウイルス禍ご助力御礼

北総育成園 園長 武井敏朗

去る3月27日(金)最初の発症者。翌日28日(土)香取保健所が全職員・利用者のPCR検査を実施。その夜の結果は新型コロナウイルス集団感染。天を仰いで茫然自失。翌日29日TVや朝刊一面大見出しで全国に発信されました。皆様もそれをご覧になったことと存じます。

このことでの行政・医療関係者の動きは迅速でした。30日午後、東庄町会議室に国・県・船橋市・香取市・東庄町・医療関係者が参集。その夕方には、当園に对策本部が置かれました。利用者の特長として新しい環境(入院治療)が困難であり、今ある環境(居室は個室)を病院化して対応すると決定(重篤な利用者との陽性職員は入院治療)。

防護服を装着し、利用者の療養と支援に向き合う。家族や周囲の理解と、何より自らの覚悟が求められます。それは北総の職員も同じこと、祈るような気持ちの中で感染症と向き合う困難な一日一日は過ぎていきました。その確実な対応の中で二次感染者は出ませんでした。5月13日に在園利用者の陰性が確認。そして6月4日に千葉県から、当園の新型コロナウイルス感染症終息の報道がされました。

心が折れそうな日もありました。終息までの困難な70日を何とか乗り越えられることができただのは多くの皆様の支援のおかげです。千葉県の施設の仲間、全国から励ましのメッセージや物資が届きました。

保護者の皆様も「頑張って乗り切ってください」と励まし続けてくれました。長い日数でしたが、利用者がよく辛抱してくれました。

今回の当園集団感染についてご支援下さった皆様に改めて万感の思いを込めて感謝申し上げます。本当にありがとうございます。ありがとうございました。

が、辛いことです。大切な人達を亡くしました。まだ入院している人もいます。このことでは言葉に出来ない切ない気持ちは深まるばかりです。どうか、引き続きのご支援とご助力を心よりお願い申し上げます。

(全国からいただいた応援のお便り)



## 「集団感染対応」ご報告」

副園長 白樫久子

正月帰宅を終えて日本に新型コロナウイルスのニュースが拡がり、北総でも衛生健康管理、物品の備蓄、恒例の旅行や面会、帰宅も中止するなどの対策をしてきました。しかし、4月の懇談会やGW外泊も中止というお知らせを保護者に発送したその翌日から北総の集団感染が始まりました。

集団検査結果の第一報は3月28日夜、陽性者57名でした。園の電話と携帯電話は途切れることなく鳴り続けました。千葉県と船橋市、香取保健所は園の状況を正確に把握しようと夜中まで連絡を取り合っており、行政の皆様には本当にお世話になりました。28日と29日全保護者に状況をお電話しましたが、我が子が兄弟に会えない辛さを感じ、強く胸が痛みました。第1報のお詫び文書をやっとお送りできたのは、5日後の4月2日でした。

29日から対策本部の指導が始まり、県の石出本部長は泊りこ



(感染管理認定看護師による衛生指導)

みで指揮をとって下さいました。館内がソーニングされ、医師・看護師の指導の下、北総職員は防護服を初めて着用し、新型コロナウイルスの治療と介護業務に立ち向かいました。職員は敷地内の職員宿舎を使ったりと家族から離れて業務にあたりました。送り出して下さったご家族には感謝の気持ちで一杯です。この頃はまだコロナの正確な情報は十分でなく、報道も風評も辛いものが多かったです。そんな中現場で必死に対応する職員がいてくれたのです。重い障害を持つ利用者が暮らす入所施設に休みはありません。しかも通常の生活支援でなく、未知のウイルスと戦う治療の現場でした。

早速船橋市から介護職員は延べ15名派遣され、消毒液やガウン他多くの物資と多大な支援が入りました。北総は指定管理施設ということで全面的な協力があり、終息後5月20日には松戸市長が私達を労いに御来園下さいました。

苦労したのはごみ処理、一般ごみはクリンセンターへ運搬、感染廃棄物は週2回数十箱のペール缶の回収、香取保健所、県や市の職員さんが全面的に対応してくださいました。感染対策をしてのごみ処理は本当に大変な業務でした。

食事は知的障害者福祉協会の皆様、47日間お弁当を調達して下さいました。毎日昼夜70食を、成田から、千葉から、柏から運び続けてくれたのです。そのお弁当をなすな工房の職員が刻み食を作って味噌汁と共に運んでくれました。

介護食では冷凍食やレトルトのおかゆやリゾットを多用しました。衛生面にも大変労力を使いましたが、日に日に回復する利用者さんが増え、残食が減っていくことは大きな喜びでした。



(衛生管理を徹底した配膳)

保護者には終息まで7回、個々の健康状態や写真を郵送しました。保護者会では北総の大変さを慮り、なるべく園に電話をしないよう協力してくれたとのこと。本当に有難うございました。地元東庄町には随時文書をお送りし、5月と6月の広報誌4000部にも添付させて頂きました。長い間大変お世話になった東庄町の皆様にご迷惑をおかけしましたが、地元の皆様温かく励まして下さいました。全国からの励ましも多く、手作りマスクや食品等、物資不足の報道もあり沢山の応援を頂きました。心強いお手紙も多く、大きな励みになりました。私達は孤独ではない！また利用者・職員と一緒に笑顔の生活に戻るぞ！そんな希望をもって毎日を乗り越えました。何があっても入所

施設は事業を継続していく社会的責任があります。改めて普段からの非常時対策と心構え、信頼関係が重要であることを再認識しました。法人から駆けつけてくれた8名の職員さん、彼らを送り出してくれた宮代理事長、各管理者とご家族、関係者の皆様、改めて心より御礼申し上げます。

4月末からは、療養していた職員達も一人二人と笑顔と涙で復帰してくれました。北総は長い歴史を抱え、また新しい一歩を踏み出しました。「今、北総が日本で一番安全で清潔な施設、北総の職員ならそれができる」と励まし続けてくれた感染管理専門の看護師さんの力強いお言葉を心に抱いて。

残念ながら、この集団感染で亡くなられた方達がいいます。入院中の方もいます。申し訳なく、無念です。ただただ、無念です。私達が多くの皆様にかけて頂いたように、思いやりと助け合いの気持ちを大切に、これから北総の暮らしを守って参ります。温かいご支援ご指導を賜り、本当に有難うございました。

## 『新型コロナウイルス 施設内療養の実際』

看護師 師岡小百合

北総育成園は3月28日に新型コロナウイルスの集団感染が発生。陽性の利用者は入院せず施設内で療養する事になりました。私は施設唯一の看護師として、不安を感じながらも支援職員と協力し夢中で看護をしていました。その時一番に考えたのは、重症者を一刻も早く医師に診察してもらおう事でした。

3月29日に医師と看護師が来園。重症者を報告し、すぐ診察に向かいました。普段の様子と今の病状を比較して話すと、医師は丁寧な話を聞いて下さり早急に対応病院を探してくれ、当日3名、翌日に2名入院する事が出来ました。

3月30日には新たに医師が2名、感染管理認定看護師と派遣看護師が多数来園され、対策本部では利用者の生活区域のゾーン分けや食事、ゴミ処理などが検討されました。

回診は、医師と看護師を私が案内しながら1日2回継続されました。私が回診に付き添う事で、パニックや自傷他害行為もほぼありませんでした。利用者さんは、介護者のフルPPE姿にも徐々に慣れてくれました。

4月下旬には利用者さんの体調も安定し、PCR検査が1週間毎に実施されました。PCR検査チームを医療、保健所、北総職員で作って利用者さんの自室を回りました。私から利用者さんに検査の説明をすると、緊張も少なく安全に実施出来ました。

忙しい毎日でしたが、利用者さんの回復に力を貰い収束を迎える事が出来ました。

北総では、再び集団感染を起こさないように①1日2回の利用者全員検温②利用者看護記録のデータ化③利用者体調不良マニュアルを作成し取り組んでいます。この経験を忘れずに励まし合い、時に厳しく支え合って利用者を守っていきます。皆様、本当に有難うございました。



『不安の中、皆様の温かい気持ちにふれて』

事務課長 飯田好江

3月27日午後10時、副園長より電話が入り、「職員1名新型コロナウイルスに感染したので、明日香取保健所が来園し、全職員・利用者のPCR検査を行うので、厨房・事務職員に連絡をお願いします」。手は震え心臓の鼓動は早まる。直ぐに職員に連絡を入れ説明する。その後は眠れずPCR検査の日を迎える。仕事をして結果を待つが、午後7時頃結果が続々と入り、陽性者の多さにただ言葉がなかった。

北総育成園新型コロナウイルス集団感染が報道された翌朝より電話が鳴り通し。お叱りの電話・無言電話が2週間位続き、帰宅しても眠られない日々が続きました。そんな中で「あなたたちが悪いわけではないんだよ」「謝る必要はないんだよ、負けちゃいけないよ」「頑張んなさい、負けるな」と優しい励ましの電話を頂き、今まで堪えていた涙が

溢れてきました。また全国より、励ましの手紙、手作りマスク・ガウン・合羽・防具服・食品などが沢山送られてきました。皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。事務は1人だったので本来の業務はできず、主な仕事は電話対応・食品や物品の発注・荷物の受取等。配達してくれる業者は少なく、取りに行っても駐車場の隅での引き渡し。宅配業者も道路際の敷地入口に置いて行く為、宅配便が届くたび取りに行くかなくてはなりませんでした。

千葉県や船橋市職員の方が手伝いに入ってくれてからは、外に行く仕事を代わりにやって頂きとても助かりました。事務業務は、船橋本部と笹川なずな工場の事務職の方に手伝って頂きました。不安だらけの集団感染でしたが、皆様のご協力のおかげでなんとか頑張ってくる事ができました。本当に有難うございました。



保護者（入居者のお父様）からのご寄稿。

『なぜ北総が…』

世間で新型コロナウイルス感染症の市中感染が騒がれ始めてきた3月下旬、北総育成園から電話があり、「園から感染者が出た。一部の入所者と職員に発熱症状があり、全員にPCR検査を行った。」との連絡が入った。その後、検査結果の報告で「北総育成園でクラスター感染」が判明、子供も陽性だった。「なぜ北総なんだ…」信じられずに頭の中で事態を整理することができなかった。これまで『なぜ…』と強く思ったことは、「子供に障害があることがわかった時」以来である。信じられなくても…信じたくなくても…『事実』であり『現実』である。何とかしなければならぬ。しかし、この「コロナに関しては」連れて帰る」ことができず、どうしていいのかわからなかった。

園からの状況説明で「個室を病室化して隔離し医師や保健所の指示を受けて対応している」との報告を受け、医療・看護体制

を整えて対応していただいていることを聞き『園にすべて委ねることが最善』であると思いつつ冷静になることができた。とはいえ、今まで通りに職員の方々のケアを受けられない状況の中で『病状はどうなんだろう…?』『食事はどうしているのだろうか?』『着替えはどうしているのだろうか?』『夜は眠れているだろうか?』『毎日胸が苦しかった。』

約2か月で終息宣言になりましたが、亡くなられた方がいることに気持ちは複雑です。やはり『なぜ北総が…』。

今回、北総職員の方々、関係職員の方々、医療関係者の方々、保健所や市町の職員の方々をはじめ多くの方々に『命がけの対応』や『支援』をいただきました。心より感謝を申し上げます。『本当にありがとうございます。』

園からは、「元の暮らしにゆっくりと少しずつもどしていきませう。」と伺っています。入所者や職員の方々の気持ちを大切に「ゆっくりに少しずつ『元気な北総育成園!』」に戻れることを願っています。

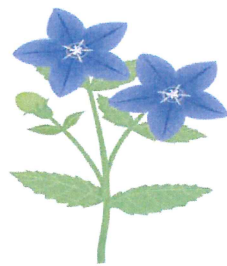
北総育成園で、新型コロナウイルスの集団感染との報告を受け、船橋圏内の各事業所から8名の職員が交代で応援に行きました。その内2名の職員に感想を綴ってもらいました。

## 貴重な20日間

カメラリアハウス 松田 夏美

北総育成園で感染者が出たと聞いた時は、以前カメラリアハウスを利用されていた方も入所されているので、とても心配になりました。その中で、派遣要請の話が入り、少しでも役に立てればという思いで行くことを決めましたが、現場に着くと防護服を着たスタッフ、医師、看護師などの姿を目の当たりにし、コロナウイルスの恐ろしさを実感しました。見えないウイルスが相手ということと通常活動はもちろん、入浴などの身辺処理もなかなか取り組むことが出来ず、こんなにも行動を

制限せざるを得ない状況での支援は自分自身にとって初めての経験となりました。また、入所施設での勤務もとても良い刺激となりました。今回の北総育成園への派遣は大変な部分もありましたが、多くの貴重な経験をする事が出来て良かったです。



## 北総育成園での体験

のまる 曾我 和秀

私が北総育成園へ応援として駆け付けた時は現場の方々はもちろん市や県から来てくださっていた看護師や職員の方々も混乱している状態で、現場の職員に

関しては全体の8割程が新型コロナウイルスに感染している状態でした。

現場では、部屋ごとの隔離というのが難しいのでユニットごとの隔離という形をとっており、ご利用者様もどうして普段の活動が出来ないのか分からず混乱しているようでした。

そんななかでも気さくに私たちに話かけてくださるご利用者様もいて、こちらも自然と笑顔がこぼれ励みになった事を覚えています。

しかし、そんな中でも大変だったのが防護服やフェイスシールドを着用しての支援で、動きづらさや暑苦しさや戦い、何より私たちの顔や表情がご利用者様にはほとんど見えていないため、看護師や医師の方々と同じ格好をしているので、威圧感や恐怖を感じているのではないかと不安になっていました。また、一度だけPCR検査に同行した時は鼻の中に器具を入れて粘液を採取

するため、ご利用者様はなぜこんな事をされているのかという不信感と恐怖感で暴れてしまう方も多く見られ、その方々を致し方ないとはいえず少々心苦しく感じていました。ですが、今回体験した事は一生のうちに一度あるか無いかの事なので、大変勉強になりましたし、非常に良い体験をさせていただきました。

不幸にも亡くなってしまったご利用者様ならびにそのご家族の皆様には深くご冥福をお祈り申し上げます。



法人内の児童発達支援センター  
『さざんかキッズ』の保護者様か  
らもメッセージを頂きました。

「伝わる気持ち」

肥後 りえ子

北総育成園の事を知り、間もなく園再開の日を迎えました。

さざんか会が厳しい状況に直面し、園全体が緊張感で張りつめていたことと思います。そんな中、いつもと変わらぬ笑顔で子どもたちを迎えて下さる先生方。不安にさせるどころか「みんなに会えて嬉しいよー」と愛情が溢れていました。そして、子どもたちの小さな手を引いて登園するお母さんたち。不安な気持ちがありながらも「いつてらっしゅい」と笑顔で見送る姿に「大変な中みんな頑張っているんだ」とお母さんたちからも元気をもらいました。

先の見えない苦しい状況の中で、その大変さを決して見せない強さ。一步一步乗り越えようとする誠実さ。さざんか会の底力を見た気がして、心打たれました。

さざんかの底力は、小さな可愛いさざんかキッズの子どもたちにも伝わっていると信じています。

### 現在の北総育成園は・・・

作業活動は【農耕・園芸・林産・紙工芸・木工・手芸・ありのまま工芸班】が平日の午前中に行なっています。林産班は椎茸原木運びに汗を流し、園芸班は例年ほどの量産はできませんが、皆でミニシクラメンの育成に取り組んでいます。色とりどりの花が咲いていてとても綺麗です。



衛生管理は、衛生感染予防マニュアルを見直し、職員一丸となって実践しています。「衛生管理講習」は、集団感染対応中にお世話になった感染管理認定看護師さんに、6月、7月、10月にご来園いただいて実施しています。10月7日は、近隣の施設の方（香取学園・大利根旭出福祉園・なすな工房）にもお越し頂いて「感染予防の基礎と実践」・「防護服の着脱指導」の他、支援の様子を実際に見ながらご指導をしてくださいました。職員一同、大変良い勉強になりました。



皆様のご支援に勇気と元気を頂きました  
**ありがとうございました！**

**寄付者 ご芳名一覧**

- ・愛泉会（社福）・旭建設（株）・あひるの会あかね園（社福）・飯嶋・イケア・ジャパン（株）
- ・石井食品（株）・石橋京子・いちばん星（社福）・大久保学園保護者会・大根旭出福祉園（社福）・岡本恵司・風の村（社福）・香取学園（社福）・金子カイデ・キッチンつなぐ
- ・キッチンひな・けいよう保護者会・健康福祉千葉方式有志二十一名・鯉屋・光風みどり園保護者会・国際ソロプチミスト船橋・こころみ学園（社福）・コスモス会（長崎県南島原市社福）・小林加代・小林武・蔵王高原牧場（有）・佐藤信吾・さわやかねっこの会・シパング（社団）・淑徳大学松浦俊弥・翔の会（社福）・章佑会（社福）・白石秀子・仁後文絵他 14名・菅谷印刷・鈴木和美・スターパートナーズ（株）・スタジオ・イブ・スリーライト（株）
- ・清郷会（社福）・全国障がい者生活向上支援機構（社団）・全国障害者生活支援研究会（NPO）・ぜんち共済（株）・蒼生の会（社福）沖縄県・高橋賢一・高橋淳子・高柳福祉会（社福）・忠恕会（社福）・千葉カネイ食品（株）・千葉県知的障害者福祉協会・千葉伝統郷土料理研究会・土善・つどいの家（社福）・東総地区自閉症協会・東庄町・東庄町房総の会
- ・東北地区知的障害者福祉協会・中里の家（社福）・中島理慧・中村ひろ子・菜の花会（社福）・西川佐代子・にじと風福祉会（NPO）・野栄福祉会（社福）・Honeycomb Works(稲村若菜)・PACガーディアンズ（NPO）・翡翠会（社福）・ひふみ養蜂園(株)・フードバンクふなばし・福祉施設共済会（株）・福知山学園（社福）・フクモト（有）・藤田敦子（NPO）・藤本卓宏・船橋さざんかライオンズクラブ・船橋市手をつなぐ育成会・北総育成園応援プロジェクト十七名・北総育成園保護者会・堀川佳子・マイルストーン（株）・槇の里いすみ学園（社福）・槇の実会（社福）・益子育子・増成織ネーム（株）・松岡静久・まつど育成会（社福）・松本邦仁子・弘美・三上かおり・三須禮子・三津田茂子・みのり福祉会（NPO）・三好俊伸・森田義博・佑啓会（社福）・ゆたか福祉苑保護者会・りんどう信濃会（社福）・梨香園保護者会・ロザリオの聖母会（社福）
- ・千葉県知的障害者福祉協会クロネコチーム（菜の花会、高柳福祉会、オリーブの樹、野栄福祉会、槇の実会、清郷会、ロザリオの聖母会、笹川なすな工房）

※匿名ご希望の方については割愛させていただきました。

※紙面の都合でご芳名を制限させていただきましたのでご了承下さい。

五十音順、敬称略。